



4 実践と実行

目標を意識し、役割を自覚し、みんなで

実践しよう（年間を通して）

全教職員で、学校教育目標を常に意識しながら、各項目の具体的な目標達成に向けて、教育活動に取り組みます。学校教育目標、具体的目標を意識して取り組むことにより、学校評価との連動が図られます。また、全教職員で具体的な子どもの姿をもとに、日常的に自分たちの取組について語り合うことで、PDCAサイクルを確かなものにし、学校としての組織力も高まってきます。

何のための実践？自分はどう取り組む？

- ① 年度当初に設定した目標に照らして、学校全体が、学年・学級が行おうとしている一つ一つの教育活動のねらいが適切であることを意識して取り組むことが大切です。
- ② 評価育成システムにおける自己目標申告書の各教職員の目標や取組についても、年度当初に設定した目標と照らして設定します。
- ③ 年間を通じて継続的に、実践をしながら、情報・資料の収集・整理をしましょう。記録に残す方法も、授業や板書などの写真、児童生徒の意見・感想・作品、各種アンケート、実態調査、お便りなど、日々の教育活動によって生み出されるものを効果的に収集・整理する方法を工夫しましょう。

話すことで、学び合い、高め合う

- ① 学校評価システムは、コミュニケーション・ツールです。取組の適切さや成果を教職員同士が確かめ合って進めていくことで、教職員同士のコミュニケーションが生まれます。
- ② 目標や取組への共通理解・共有化が進み、次の取組への意欲も高まってきます。
- ③ 子どもの姿を確かめ合うことで、児童理解が進み、授業改善・指導力向上にもつながります。



- 目標や取組が共有化できていますか。
- 教職員全員で取り組んでいますか。
- 検討が必要なこと、気になったことがすぐに話し合える場がありますか。
- 子どもの姿について、日常的に話題になっていますか。
- いいことも悪いことも、何でも語り合える、『批判的な友人関係』が築かれていますか。
- 学校組織が、開かれた組織になっていますか。
- お互いを尊重し合い、信頼し合う雰囲気がありますか。

伝えよう、私たちの取組みを がんばりを！！

実践しながら、学校の様々な取組について、学校公開の実施、学校便り、HPなどで保護者や地域住民へ情報提供を随時行います。積極的に情報を提供することで、保護者からの理解や共感、協力を得るきっかけにもなります。